

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

3番山口裕子議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、通告に従い一般質問をさせていただきます。

まず1番目、障害者福祉について、自立支援法についてお尋ねいたします。

障害者福祉サービスの仕組みが急激に変わろうとしている現在、障害者自立支援法が期待と不安の中、今年4月から施行されました。新しい制度は、障害児、障害者の自立と社会参加、地域におけるサービス拠点づくりなど、地域生活支援と就労支援を大きな柱として、障害児、障害者のサービス体系の充実強化が図られることを目指しています。

障害のある人たちが地域の中で活力ある生活を送り、生きがいを持って働くことができ、地域住民が相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らすことができる地域づくりが求められています。武雄市としてはどのような形で支援、サービスを整えていかれようかとされているのか、市長にお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から障害者の福祉行政についてお答えをいたしたいと思えます。

まず、今議会に相談支援事業として必要な事業予算を計上しております。その上で、また支所等の活用についても、障害者の福祉も中心に据え、今考えておるところであります。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

若干事業の中身について御説明を申し上げます。

市の支援策といたしましては、日中一時預かり等の支援、福祉ホーム設置者への運営支援、自動車免許取得、自動車改造等への支援、サービスを開始する市内事業者への支援等の事業を予定しているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

4月から負担金がかかるようになってから、さまざまな問題点、不安とこれからのことなど、どこに言えばいいのかわからないという意見が多々相談があります。市としても一番早急に用意しなければいけないことが、今、答弁にありましたように、やは

り相談事業じゃないかというふうに私も思っております。やっぱり本当に本人のために親身に考えてくれる相談窓口が一番必要とされているんじゃないかというふうに思います。

「「地域でくらす」～佐賀がんばらんば！宣言～」と知事が打ち出し、バリアのない自立と共生の社会を目指して、実現のために強力に推進していただいております。しかし、現実には就業支援といっても、何回も何回も実習に行っても、頑張っても、なかなか就職には至りません。一たん就職しても、障害者に対するの誤解と偏見も多く、仕事を続けることが困難なことが多いとも報告されております。企業の方も努力され、周りの方も努力されていると思いますが、理解していただくには時間のかかることだと思っております。

財政難から支援費法、また自立支援法と改正され、箱物から地域へ、地域へといきなり叫ばれても、本人たち、家族はもちろん、地域にとってもすぐに受け皿ができるものではないと思っております。箱物である施設にとっても運営に不安を来している声が届いております。4月から始まりました自立支援法に対しまして、施設、本人たち、家族、そういう声を聞きながら準備をしていっていただきたいなというふうに思っておりますが、そういう準備の仕方に対して御答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

障害者の総合支援の拠点をつくりたいというふうに思っております。そこで、相談の窓口や就労等の支援をする地域活動支援センターを配置するように考えております。現在、庁内の検討委員会の中で支所の有効活用ということを検討していただいておりますので、その中で検討をしたいということでございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から補足をさせていただきます。

先ほど部長答弁のとおり、山内支所の方に障害者の総合支援センター的なものを設置しようというふうに思っております。ただ、これは行政だけが、いや、こういうのをつくるとばいというんではだめだというふうに思っています。だから、もう少し行政の方で詰めさせていただいて、その上で、いや、こういったことがもっと機能的には必要だとか、あるいは必要ですということをごさしやっただいただければありがたいというふうに思っております。

重ねて答弁になりますけれども、今、検討委員会の方で成案をつくってもらっています。それで、また秋が深まったころにお示しをさせていただければというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

支所内にといいことですが、やはりそういう形で意見を聞き合って、果たしてそこが障害者の支援センターとして適しているのか。本人たちの声を聞いてみると、やはりそんな真ん中にと、ちょっとそこがセンター的なのが、相談窓口じゃなくて、ひょっとしたら作業所的な形になるという声もありまして、そこではまだまだ偏見がありまして、とても見せ物的ではないかとか、音とか作業的に問題があるのじゃないかとか、そういう意見も上がってきております。しかし、そういうのはお互いの話し合いによって十分な検討ができると思いますので、今後煮詰めていかれるときには、そういう声を大切にしていっていただきたいというふうに思います。

やはり開かれた福祉というのは、障害児、障害者本人のみならず、地域住民、企業、学校などの幅広い参加を求めるほか、啓発、広報活動を積極的に進めることが必要であり、また、国、県、市町の適切な支援により地域間での均衡ある福祉サービスが提供されることも重要であります。制度は大きく変わろうとしています、障害児、障害者の福祉の向上は、障害者に応じて、時間をかけて声を聞いて積極的に推進していただきたいと思ひます。

それでは次に、パーキングパーミット制度についてお尋ねします。

全国で初めてスタートする佐賀県パーキングパーミット制度は、県が県内に共通する利用証を交付し、身障者専用の駐車場を利用できる方を明らかにし、本当に必要としている方のために駐車スペースを確保するものですが、武雄市において、どれくらいの方が申請されましたでしょうか。また、公共の施設など駐車場の数は確保されているのでしょうか、お尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

申請者の数については、申しわけありませんが、確認いたしておりませんので、早急に確認次第、報告をさせていただきますと思ひます。

それから、どういうところに駐車場を確保しているのかということですが、県との協定の締結を8月にいたしております。武雄市役所本庁、山内支所、北方支所、文化会館、図書館・歴史資料館、白岩体育館、市民病院に看板 ステッカーでございますが、貼付をいたしてあり、専用駐車場を確保しているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

この制度も始まったばかりなんです、こういう制度がおりてきたときに、やはりこれを必要としている方たちがたくさんおられるわけですね。本当に早い投げかけというか、お声かけをしていただきたいなというふうに思います。

障害を持って外に出ていくというのは本当に大変な勇気が要ることでありまして、私たち自身、健常者で車を運転している人も意識をせずに障害者専用の駐車場に駐車してしまうというケースが多いわけです。車いすで自分で移動しようと思っても、あいていないために、そのまま帰らなくてはいけないというパターンが多々あるというふうに言われております。一人一人が開かれた福祉といいますが、一人一人の市民がそういう意識を持つということで、このパーキングパーミット制度はとてもいい投げかけじゃないかなというふうに思います。ぜひ市でも、こういう制度を優先していただきたいなというふうに考えておりますが、そういうお考えの所見をお聞きいたしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

パーキングパーミット制度を最初聞いたときは、これは何じゃと思ったですね。だから、ちょっと一つ、このパーキングパーミット制度をよか日本語に、ぜひ何かまた私にも教えていただければありがたいと思います。なかなかやっぱり考えつかんとですね。その上で、この制度の趣旨、あるいは制度が目指すことについては、私は議員と全く同じで大賛成であります。しかし、議員も指摘があったように、これをまだ知られていない。これは名称も含めてそうだと思いますけれども、存在を知られていませんので、ケーブルテレビ、あるいは広報「武雄」、ホームページ等々でこういった制度があります、申請をお願いしますといったこと、そして、駐車場がわかりやすいように、看板であるとか、そういったことは我々の方でもきちんと工夫をさせていただきたいというふうに思っております。1年後には、この言葉、あるいは制度が市民皆さんの気持ちに根づくように我々も頑張っていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

佐賀県が全国で初めての取り組みということもありますし、何か開かれた福祉というところで、むだにせずに、市民の意識改革として、こういう制度を進めていただきたいなというふうに思います。

本当にすべての人が楽しく、佐賀、武雄のまちに来られ、まちを楽しめるよう、みんなが譲り合い、思いやりの優しいマナーをはぐくみ、安心して暮らしていける社会づくりになっていくことと思います。武雄市の温もりのあるまちづくりとして、企業、施設などにも推進

していただき、福祉の行き届いた武雄と言えるように投げかけていただきたいなというふうに思います。

また、こういうマナーといいですか、これは子供たちに大人がして見せるマナーといいですか、自然とこういう福祉に対して、障害者に対してというか、そういう思いやりというのが大人からして見せられる一つではないかというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次、2番目、地産地消のまちづくりの推進についてお尋ねいたします。

まず、学校給食ですが、現代社会は身近に健康を脅かすインスタント食品やファーストフードがあふれ、多くの輸入食材を使い、人工的に味つけされた画一的な大量生産、大量消費の食が取り巻いています。食料自給県と言われる佐賀県も例外ではありません。安易で人工的な食の蔓延は、アレルギーや肥満、糖尿病など生活習慣病の増加や医療費の負担を招いています。子供たちに食の大切さや本物の味、健康の大切さを知ってもらうためにも、学校給食は大変重要な役割になってくると思います。「ふるさとの食の日」支援事業などにより地産地消も充実してきておりますが、今現在、学校給食においてどのような努力がなされているかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

学校給食における地産地消の視点からの給食のあり方、これは本当に今、県民の皆さん方に大きな関心と期待を寄せていらっしゃると思っております。本市におきましても、地産地消の視点から、食材につきまして、特に青物野菜につきましては、各学校、県内産ということで、その利用に頑張っているところでございます。また、先ほど御指摘がありましたように、「ふるさとの食の日」ということで、山内町の継続的な食の日の推進、あるいは朝日小学校での本年度の推進と、こういうものを核にしながら、地産地消の視点からの食材利用ということで頑張っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に「ふるさとの食の日」という事業が、私としては大変いい事業だったなというふうに思うんですが、指定校になったところに補助金というか、補助があってやられていたわけですが、既に山内町はその補助を受けておりませんが、やはりこれは栄養士さんも素晴らしいことだということで独自に努力をされて進めておられます。こういうことに対して、やはり市としても助成をしていくというか、予算づけのところで、給食費の材料の値上がりとか、異常気象による野菜不足とか、そういう経費のところはかなり苦労されているような面もあ

るようです。今後、やはり学校給食から食育も含めて地産地消というところで行くと、やはり市として「ふるさとの食の日」のような、名前はまた市としては変わるかもしれませんが、そういう事業をとり行うというような予定はないでしょうか、お尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

教育委員会といたしまして、「ふるさとの食の日」という補助事業につきましては、先ほどお話し申し上げましたように、現在、朝日小学校がそれを実施しておりますが、教育委員会として新たに「ふるさとの食の日」という学校を指定いたしまして、市独自でやろうという考えは今のところございません。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

今、本当に子供たちの食環境は家庭から守れなくなったような状況もあり、私としては学校給食に力を入れてやっていっていただきたいなというふうに思っていたのですが、やはり今後、今答弁にありましたように、教育長は考えていないということでしたが、市長としてはどうのお考えをお持ちでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私はちょっと教育の現場以外の答弁をさせていただきたいというふうに思っております。

食育については、「ふるさとの食の日」というのは私は高い評価を実はしております。今後どういうふうに学校、あるいは地域の方々、そして、我々親の世代を巻き込むかということに関しては、もうしばらくちょっとお時間をいただければというふうに思っております。また、議会等で事前に御説明、御報告等はさせていただければというふうに思っております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

既に各地、ほかの市町村とかでいろいろな取り組みが行われております、地域とか生産者とかを巻き込んでですね。私はぜひ栄養士さん、栄養士さんも本当いろいろな御苦労を重ねて準備をしていただいておりますが、実際そういうのが、素晴らしい便りとかも出されているんですが、なかなか保護者は読んでいなかったりとか、子供も手渡していなかったりとか、あとそれが生産者にも読まれていなかったりとか、何かつながっていないところを感じてい

るんですね。

栄養士さんとか生産者、子供たち、保護者の方々を交えた公開給食会みたいな、授業参観じゃないですが、そういうところで、やはり食の大切さ、命をはぐくむ農業の大切さなどを伝えていくことが一番伝わっていくんじゃないかなというふうに思います。一つ一つが切れていては、子供たちもなかなかわかりにくいというふうに思います。そしてまた、そういうことによって地域が見えてきて、その食材のおいしさとか給食の大切さなどが伝わっていくんじゃないかというふうに思います。これはどういう形であってもいいんですが、ぜひ皆さんが頑張っておられる形が一つになるような教育の出し方ですか、公開給食会などは一つの例ですが、そういうことを打ち出していただいたらなというふうに思っておりますが、こういう考えに対しては教育長どうお思いでしょうか、お尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

私も議員と全く同じ考えでございますが、現在、山内町がその先進的な取り扱いといえますか、取り組みをなさっているわけでございます。生産者の皆様、納入業者の皆様、それから、関係のいろいろな方々の合同の会議を持たれて、ふるさとというものの姿をどのように子供たちに食を通して学ばせようか、伝えていこうかと。そのような取り組みにつきまして、武雄市の学校栄養職員の研修会というのが実はあるわけで、今、山内の先生の方にそういうお話しもしていただいているところでございます。

なお、先ほど全く同じ考えでございますと申し上げましたが、食材に使用される地場産物、ここから期待されることとして、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深める、あるいは継続していく心を育てるということで、この地場産物というものは非常に役に立つわけでございますね。それから、地産地消の推進というのは、生産者、生産に携わる人への感謝の心を育てると。ですから、地産地消の考え方を取り入れた学校給食の推進というのが今非常に脚光を浴び、また、私たちの生き方に大きな影響を与えているというふうに私は考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

子供たちも食育の大切さとか、学校の畑をつくったりとか、環境のこととかよく学んでおります。それで、栄養士さんも本当に子供たちにおいしいものを、安心・安全なものをというふうに、本当に生産者もそういう思いです。お母さんたちもなかなか家庭からこういうことを発信できないとは言っている、自分の子供の成長、健康を願って日々やっているわけですが、やはりこれがつながって一つになっていくと大きな力になっていくんじゃないかな

というのを最近感じておりますので、ますますそういうところを前提に置いて進めていっていただきたいなというふうに思います。

それでは、次に行きまして、2番目の農業振興に入らせていただきます。

学校給食でも述べましたが、やはり命をはぐくむ農業の大切さを子供たちにもっと知ってもらい、やりたい職業として農業が挙げられるよう努力していただきたいと思いますが、例えば、毎日給食の時間に「きょうの野菜はどここのだれだれさんです」とか、近くのおじさんとか、近くのおばちゃんたちのつくったお野菜とか、そういうことを知ることによって生産者もまた元気が出ますが、子供たちも地域が見えてきて郷土愛も育ち、農業に対して尊敬の念も出てくると思います。後継者を育てるという意味でも、子供たちにもっと農の大切さをアピールして農業振興につないでいってほしいと思いますが、武雄市としては農業振興という意味でどのような取り組みがなされているかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

子供たちに農業の大切さ、こういうのをお知らせするというところでございますが、市といたしましては、現在、県の普及センターの協力によりまして、旬の野菜の生産情報、これを「旬だより」として学校とか保育所等へ定期的に提供していくということにいたしております。生産者から情報提供ということで取り組んでいくことにいたしております。

それからもう一つ、現在進めております「“食と農”絆づくりプロジェクト」の中で、生産者がみずから学校、保育所等に出向きまして、話や体験を通じて子供の食と農に関する理解を深めてもらうという目的で、ふるさと先生派遣事業を武雄・杵島地区で推進をすることにいたしておりますので、この分につきましては、ぜひ御活用をいただきたいというふうに思います。

それから、さらに同じく「“食と農”絆づくりプロジェクト」の中で、武雄市保育部会では給食献立を見直すということで、地元産の旬の農産物の利用拡大を目指し、研究活動が始められております。これらを今後地元産の食材の供給体制につなげていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

後継者のお話がありました。そこで、私は一つお願いがあります。というのも、先日、私はある日本を代表するような農業経営者の方とお話をしました。そのときに非常に印象に残った言葉の一つとして、やっぱり格好いい農業を目指したいと。決してブランド物を着たり



とか、そういうのではないですけども、やっぱり子供というのは見た目から入っていく部分があると。作業する姿、あるいは作業する格好とか、あるいは話し方とか、そういったのに物すごく気を使っていると。だから、広い意味での格好いい農業というのもぜひ農業経営者の方々には念頭に置いてもらいたいというふうに思っております。というのは、農業といえば、きつかとか、つらかとか、悲しかとか、何かそういうイメージがどうもやっぱりある。だから、そうじゃないよと。命と直結するようなものをつくっていますとか、あるいはこういうおいしいものをつくるすばらしい職業だというふうに私は思っています。だから、それを子供たちにもう少しわかるように農業経営者の皆さんたちも努力してもらえればありがたいというふうに思っております。これが私がこのごろ最近で話を聞いた中では非常に印象的な言葉として披露させていただきたいというふうに思います。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

今、市長が言われることも本当にわかることだと思います。今、本当にそういう農業者の仲間は、やはり以前とは違って、何かアピールするものを持って、やりがいのある仕事として打ち出しておる方がたくさん農業者としておられます。そういうところをやはりさっき言っていた公開授業とか、そういうところにつないでいく。そして、命の大切さ、こんなに魅力ある仕事だということを、今まではなかなかそういう流れがなかったように私は思うんですね、つながっていくというところで。だから、今、全国的にというか、食育、食の大切さが見直されて、本当に必要な形になっておりますので、私はそういう場の提供ですね。先ほど答弁いただいていたように、保育部会とか、そういうところでもいろんな形で準備されているということはとてもありがたいことだと思います。これが本当に一つになっていけば、すばらしい農業もできていくし、子供たちも食に関してでも健康体で、すばらしい魅力ある武雄市の食育ができ上がっていくんじゃないかというふうに思っております。

やはり食の大切さを通して、先ほど市長が言われるように、若者がやりたいと思える職業が本当そういう農業と言えるような武雄市、そういうところに力を注いでいってほしいなというふうに思います。

では、地産地消の最後になりますが、食育課の設置についてお尋ねいたします。

地産地消のまちづくりということで、学校、家庭、生産者、料理店など、地域のすばらしい食環境をつくっていくためにも、ぜひコーディネート役として、この課の設置を求めるものですが、市長として具約にも上がってございましたが、いつごろに予定されているのか。また、食育課という役割などをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

食育課についてのお尋ねがありました。御指摘のとおり、私の具約、公約の中でも入れております。これは来年4月の組織機構改革の中の一つの目玉として打ち出していきたいというふうに考えております。

その際の担うべき役割といたしましては、今のところ食育課長には全国公募の資格をきちんと持った、あるいは食品添加物に詳しい方とか、食品加工に詳しい方とか、そういう専門的な知見を持つ方を食育課の責任者に充てたいというふうに私は考えております。その上で、環境と同じように、食育も環境と同じ性格があると思います。いろんなところにつながっている。教育につながったり、あるいは農業につながったり、場合によっては建築にもつながるかもしれない。そういった意味で、食育課が食と農を結ぶ一つの結節点としての役割もそこに果たしていきたいというふうに考えております。

具体的な詰めは、今、行政改革の幹事会の中で詳細は詰めてもらっていますので、また、しかるべき段階で御報告、御説明をしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

4月からということで、専門的な方を準備しているということですが、今、私が学校給食とか農業振興について言ってきた中で、やはり私として食育課の中でこういう人がいたらいいなというのは、やはり栄養士さんがこういう時期にこんなものが「ふるさとの食の日」として欲しいんですというときに、生産者に連絡をとったりとか、そういう供給の問題とか、そこが本当にできないと。また、生産者もどういうところにおられるかわからないし、本当高齢化になって、それだけの量はできないとか、そういう問題をつないでいく課として、私はコーディネート役というか、そういうところにおいて準備されれば、すごくこれが機能を果たしていくんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういうことを踏まえて準備していただけたらなというふうに思います。

やはり食の大切さを知り、地域の歴史や文化、暮らし、生活を改めて見直し、人々が築いてきた食の文化を再発見し、地域が元気になっていくことにつながっていくと思います。地産地消のまちづくりにやはり力を注いでいくことに私も期待しますが、子供たちも市民も根本、生活の中の基本的なことではないかというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

では最後に、環境問題についてお尋ねいたします。

武雄循環型社会計画についてお尋ねいたします。

今、一人一人が一番意識しなければならないのが、ごみ問題だと思います。「佐賀のがば

いばあちゃん」をロケ地に誘致した武雄としては、ごみになるものがなかったこの作品の時代に視点を置き、物の大切さや人の大切さなどをアピールしてほしいと思います。日本は大量生産、大量消費、大量廃棄、リサイクルと、ごみは減らないごみ産業をつくり出してしまいました。しかし、未来の子供たちに少しでも資源を残すためにも、早急な対策が必要とされています。市長としてはどのような取り組みをお考えかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

循環型社会構築についての御質問がありました。私も具約、公約の中の23番目に循環型社会の構築を目指すというふうに掲げております。大量生産、大量消費、大量廃棄型社会から商品の効率的利用、リサイクルを進めることにより、環境への負荷の少ない循環型社会を目指したいというふうに思っております。

ただ、これは言葉でだけ言っても私はだめだと思います。その具体的なプランの一つとして、一つぜひやりたいと思うのがごみの分別であります。これについては、廃プラスチックの分別収集については、現在、北方町で実際実施をされております。この廃プラスチックの分別収集と同様に、全プラスチックについて、平成19年度中に武雄市域全域で実施をしたいと私自身考えております。ただ、これは関係の箇所、あるいは予算等々が必要になりますので、これはきょうを境に詰めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり環境政策として、一人一人の市民の意識改革にまずは力を入れていかなければならないと思います。今まではほとんど何か女性団体に頼られておったところが大きくて、やはりこの意識啓発のところから企業とか、あらゆる団体、男性、また老人会とか含むところですが、そういう団体に投げかけて行ってほしいなというふうに思います。

また、お金や経済、目先、ビジネスよりも、やはり命や環境、未来、子供たちを重視する人たちがふえることによって、ごみ問題、環境問題は解決していくと思います。今、市長が言われたように、ごみの完全分別と生ごみの堆肥化、生ごみの堆肥化は本当に個人的な活動だったりもしますが、ボカシとか、いろんな畑に戻す有機農的な栽培をするためにもですが、そういう活動をされている方がいらっしゃいます。そういう生ごみの堆肥化の推進、あとデポジット制の導入など、ごみをつくらない、売らない、買わない社会システムを武雄市としては打ち出して行ってほしいなというふうに思います。

やはり一人一人の意識啓発ではありますが、一人一人ができるところから、例えば、マイは

しですね。はしは間伐材ではありません。1人200膳から300膳は使い捨てをしております。こういうところから簡単に使い捨てのシステムというか、そういうところを直していくためにも自分でマイはしを持つとか、あとマイバッグですね、買い物に出かけたときには包装紙をみずから断る。そういう意味を知って行動するというところの打ち出しが大変大切だと思います。あとはマイボトルというか、マイお茶ですね。本当に大きな会議とかになると、200も300もペットボトルのお茶が配られますが、自分でお茶を持つと、そういうことがなくなりますよね。やはりどこからか、そういうごみを削減するというか、動きをとらなければ何も始まらないじゃないかというふうに私は思います。

やはりぜひこのテレビのロケ誘致を生かして、武雄はごみのゼロまちというか、大幅削減とかを打ち出して、40年前の循環型社会をぜひこの映画を通してアピールしていただきたいというふうに思います。この「佐賀のがばいばあちゃん」の映画もいろんな意見がありまして、ただの観光誘致みたいな形でとっている方も多いです。でも、そうじゃなくて、この映画の中にはやっぱりこういう循環型社会の魅力とか、そういうものが何かしら皆さんの心に引っかかって愛される作品ではないかというふうに思いますので、ぜひ私はこれに取り組んだ武雄市として、40年前までにはいかないと思いますが、循環型社会をアピールしていただきたいというふうに思います。やはり捨てるために、自分たちの税金で大体毎月1家族でごみ処理費を30千円以上負担しているというふうに言われております。本当に捨てるために自分たちの税金が使われているということをもう少し考えていかないといけないじゃないかというふうに私は思っております。

それで次に、地球温暖化防止についてお尋ねいたします。

先ほども言っておりました循環型社会の計画と重なるんですが、私は武雄市に入って仕事をすることになって、武雄市役所の中は意外と投げかけている、実践されていることが多いと思います。 unnecessaryな照明を消したりとか、自転車にはエコチャリというふうに、あれを利用するようになっていたり、アイドリングストップの啓発とか、あと冷暖房の調節とか、意外と武雄市役所の中はすごく意識啓発というか、そういうのが投げかけられているなというふうに思います。やはり市民の末端というか、意識としては、なかなか浸透していないように思います。そういう啓蒙啓発というところで、武雄市としてはどのようになされているかをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

藤崎市民環境部長〔登壇〕

先ほど市長が申しましたように、循環型社会の構築を目指しております。先ほども分別もありました。武雄市の循環型社会計画の策定につきましては、15年度に一般廃棄物処理基本計画の策定を進めております。この計画策定と並行して、武雄市循環型社会計画を策定しま

す。先ほど循環ということですが、庁舎内は、地球温暖化等も関係いたしますけれども、武雄市におきましては地球温暖化防止率先行動計画とか、いろいろなことをしてまいっておりますので、ここら辺ももっと充実した形にしていきたいと思っておりますのでございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をいたします。

環境基本計画を今後策定いたしますけれども、これもまた行政用語のつながりばかりだと、机に置いただけで終わりになってしまいます。したがって、一つの案として、例えば、7月はクールビズ、8月は打ち水、9月はともかくとして、12月はウォームビズとか、何か生活に直結したごたるわかりやすいことが、根づくためには私は必要ではないかというふうに思っています。それがひいては地球温暖化の防止、CO<sub>2</sub>防止につながっていくのではないかなというふうに思っていますので、この温暖化防止計画には市民だれもが、ああ、これやったらきょうからでもできるばいと、したかばいというふうなものをぜひ加えたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

今、市長の答弁をいただきましたが、本当にわかりやすい打ち出しを私もしていただきたいなというふうに思います。結構やっているんだけど、どこかで途切れていってしまっているとか、意識につながっていけないというのをすごく感じます。今、市長が言われたように、何か楽しく進めていけるような打ち出しを行政側から引っ張っていただくということが大きな力ではないかというふうに思います。

本当に地球温暖化により、自分さえよかったらという社会をつくってしまって、本当に世界じゅうで異常気象が多発して、食料輸入国の日本は深刻な状態も予測されております。また、海面上昇によりモルディブなど数十カ国は国の大半が水没と予測されております。やはり自分さえよかったらいいの社会ではなく、一人一人ができることから始めようの社会システムを行政が投げかけてほしいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、最後になりました。玄海原子力発電所のプルサーマル計画についてお尋ねいたします。

2010年、平成22年に玄海原発3号機で予定されているプルサーマルは、長崎の原子爆弾の

材料だったプルトニウムを発電に使用します。プルトニウムは核反応が起こりやすく、激しく熱が出るので、原子炉の制御が難しくなります。また、プルトニウムを肺に吸い込むと肺がんになることが動物実験で確かめられています。現在、六ヶ所村の再処理工場でプルトニウムを吸い込んだことが問題となっております。プルサーマルを行うためには、ウランの使用済み燃料からわずか1%のプルトニウムを取り出すために莫大な費用をかけ、放射能を環境にまき散らし、再処理をしなければなりません。そのためにプルサーマルを続けようとしているのは核保有国のフランスだけです。また、原子爆弾の材料となるプルトニウムを取り出すことは軍事上の核拡散の問題が起こり、非常に危険だと言われています。

ことしの3月26日、古川知事はプルサーマル計画を事前了解、同意いたしました。全国に先駆け、この佐賀県で実施されようとしています。古川康佐賀県知事とともに積極的に佐賀県づくりを推進しておられる樋渡市長のお考えをお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は積極的な武雄市政を今展開しておりますので、その立場から一言申し上げたいというふうに思っています。

まず、プルトニウムの関係で、エネルギーの再利用、あるいは継続的利用という観点から、私は一定の理解を実は示しております。そういった観点から、今後必要となるのは、いや、これが九州電力であるとか、さまざまな関係のところは安全だ、安心だというふうにおっしゃられております。これは積極的に県民、あるいは武雄市民に広報をきちんとしていただければというふうに思っています。そういった意味からでも、私が申し上げたいのは以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

はっきりとしない答弁だったんですけど、本当に私自身もこれは難しい問題だとは思っております。やはりプルサーマルについては、安全性についてもそうですが、どれくらい県民がというか、認識があるかというところが問題だと思います。しかし、もう少しこの問題は私たち自身の問題として考えてみる必要があるのではないかというふうに私は思います。

また、放射能による環境汚染を避けると同時に、石油や石炭の大量消費による環境破壊を避ける道が探られております。例えば、太陽光とか風力発電、汚泥ガスやごみや木質ガスなどのバイオマス、小水力などを利用した発電、省エネ住宅などなど、たくさんの方が実行できると思います。また、先ほど挙げていました一人一人が地球温暖化防止に努めれば、本

当に電力は不足するようなことがないと思います。放射性廃棄物の管理や処分には何世代もかかり、多大な費用とエネルギーが必要になります。それでも安全は保障できておりません。

私は市長が武雄にそびえる樹齢3,000年の3本の大楠を、地球環境問題を考え、メッセージシンボルとして、日本に、世界に情報発信したいというふうに具約に書かれております。本当にこのところを市長に大切にしていきたいなというふうに私は思っております。ぜひ武雄から、やはり世界平和や地球環境問題ですね、そういうことをぜひ力強く発信していただき、すばらしい武雄市のまちづくりにしていただきたいと思っております。

これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（杉原豊喜君）

山口議員、そのままちょっとお待ちください。先ほど山口裕子議員よりの質問について、パーキングパーミットの申請件数についてですけど、これについて、執行部より答弁を求められておりますので、これを許可します。中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

パーキングパーミットの申請件数でございます。杵藤保健福祉事務所に問い合わせましたところ、市民の方から約280件の申請があっているということで報告がありました。報告いたします。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で3番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

次に、30番谷口議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。30番谷口議員